

令和7年度

公立高等学校入学者選抜

学力検査結果活用ガイド

～学習内容の確実な定着に向けて～

山梨県教育委員会

目 次

I	調査の概要	-----	1
II	総合得点（全教科の合計点）の学力検査結果概要	-----	1
III	教科別学力検査結果及び抽出調査・分析の概要		
	国 語	-----	3
	社 会	-----	7
	数 学	-----	1 1
	理 科	-----	1 5
	英 語	-----	2 0

I 調査の概要

1 調査の目的

令和7年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析をとおして、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育を充実させるための資料とすることを目的とする。

2 学力検査実施日，調査教科

令和7年3月5日（水）

※大雪による影響が懸念されたため、開始時刻を90分遅らせた措置を講じた。

国語（55分）	11：00～11：55
社会（45分）	12：15～13：00
数学（45分）	14：05～14：50
理科（45分）	15：10～15：55
英語（45分，うち「リスニング」約10分）	16：15～17：00

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した3,191人を対象としている。

なお、正答率調査については、上記受検者の中からの抽出者を対象とした。抽出人数は、321人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出にあたってはすべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の学力検査結果概要

1 出題のねらい，配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、それらを活用する力を検査することができるように出題した。
- ② 当該教科の各分野，領域及び事項にわたって偏りのないように出題した。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し，思考力，判断力，表現力を検査することができるよう工夫した。
- ④ 全県的な視野にたって出題し，地域差による影響が生じないようにした。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにした。

2 総合得点及び教科別平均点，最高点，最低点（調査対象：3,191人）

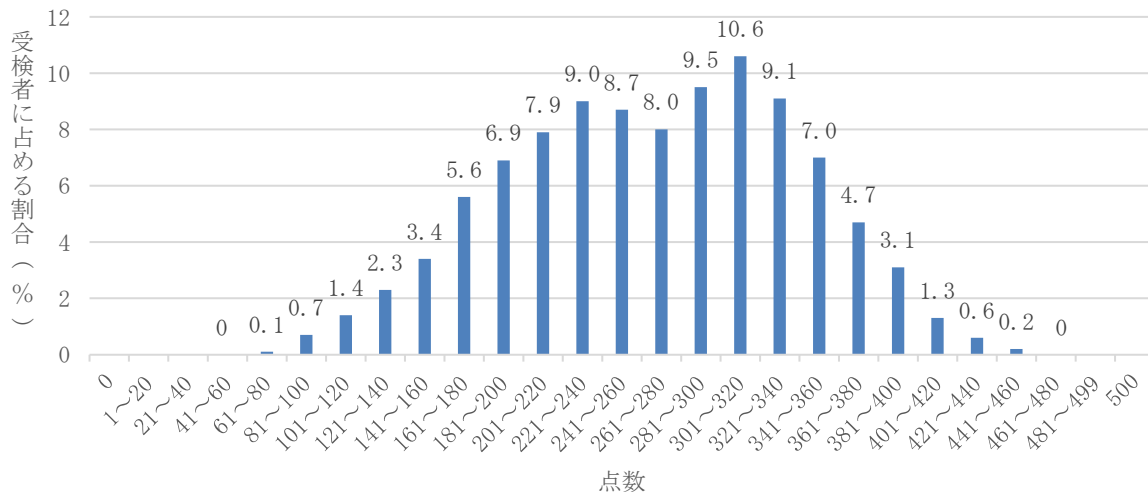
	総合得点	国語	社会	数学	理科	英語
平均点	266.6	57.3	50.8	48.3	54.5	55.8
最高点	443	87	94	100	100	100
最低点	52	10	13	0	9	6

3 総合得点の得点分布（調査対象：3,191 人）

総合得点の平均点は 266.6 点で、前年度より 5.4 点上がった。得点分布は（図 1-1）に示すとおりである。

*小数点第 1 位までを表示している。

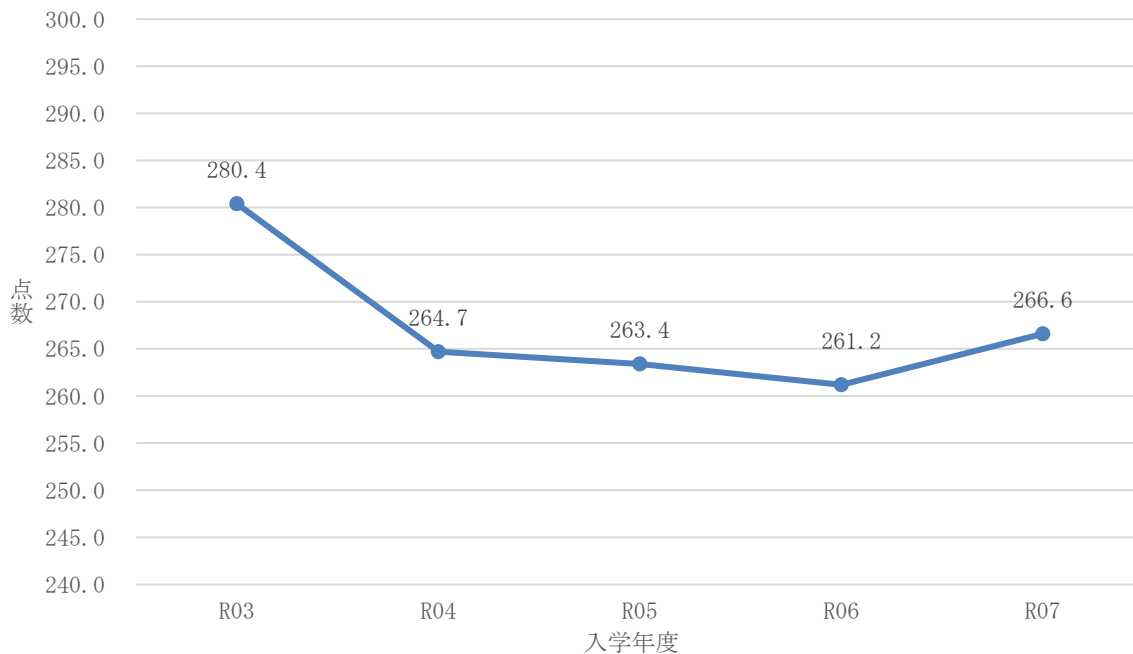
（図1-1）



4 総合得点の平均点の推移（調査対象：各年度の 5 教科受検者全員）

令和 3 年度から今年度入試まで 5 年間の全体平均は（図 1-2）のように推移している。

（図1-2）



* R03 は一部教科で出題範囲を限定

Ⅲ 教科別学力検査結果及び抽出調査・分析の概要

○ 国 語

1 出題のねらい、配慮事項

中学校学習指導要領の趣旨に基づき、「知識及び技能」，そして「思考力，判断力，表現力等」における３領域（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」）から広く出題した。

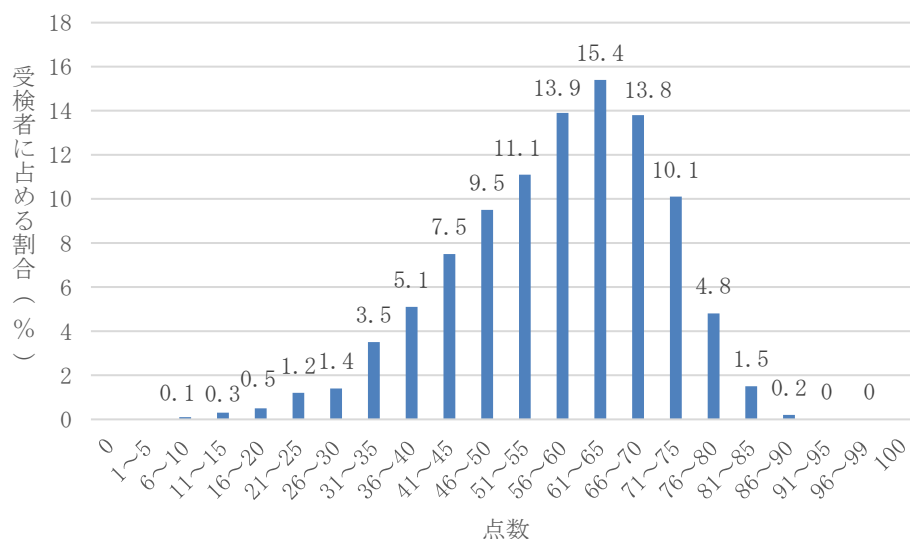
- ① 「話すこと・聞くこと」については，自分の考えを提案する場面を取り上げ，資料を用いるなどして自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力などを測る出題とした。
- ② 「書くこと」については，説明的な文章の内容に即したテーマについて，適切な材料を集め，自分の考えが分かりやすく伝わるよう，構成や表現を工夫する力などを測る出題とした。
- ③ 文学的な文章については随筆を取り上げ，表現や場面の展開などに注意しながら読み，目的に応じて複数の情報を整理しながら，適切な情報を得て内容を解釈する力などを測る出題とした。
- ④ 古典については，現代語訳を手掛かりに古文を読み本文に登場する動物相互の関係や言動の意味などを考えたり，場面と描写を結び付けたりして，内容を解釈する力などを測る出題とした。
- ⑤ 説明的な文章については，物との関わり方に関する二つの文章を読み，文章を批判的に読みながら，文章に表れているものの見方や考え方について考える力などを測る出題とした。

2 教科別 平均点，最高点，最低点（調査対象：3,191 人）

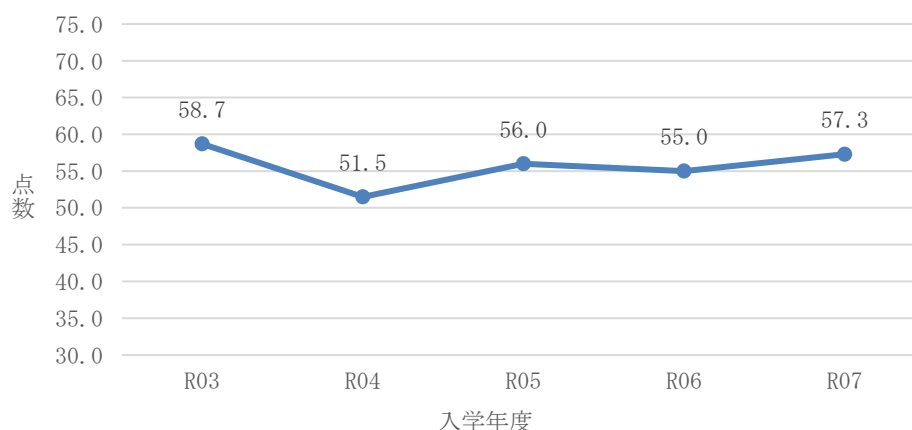
平均 57.3 点，最高点 87 点，最低点 10 点

3 国語の得点分布（調査対象：3,191 人）

*小数点第 1 位までを表示している。



4 平均点の推移（調査対象：各年度の 5 教科受検者全員）



5 大問別の内容と抽出調査・分析

一 知識及び技能（漢字の読み書き・書写に関する知識）

一、二では、これまでと同様に常用漢字の読みと書き取りについて出題した。学習指導要領で求められる漢字の知識は概ね身に付いているといえる結果であったが、一（オ）「岬」、二（イ）「演劇」の正答率が70%を下回った。三では、学習指導要領の「我が国の言語文化に関する事項」の中から書写に関して、漢字の行書の基礎的な書き方の理解を測る出題としたが、正答率が58.6%であった。社会生活において身近な文字を行書で書くことができるよう、毛筆の活用に配慮しつつ、生徒自らが行書の特徴に気づき、その特徴を生かそうとする主体性の涵養が求められる。

二 話すこと・聞くこと

社会生活の中から話題を決め、自分の考えを提案する場面を想定した。論理の展開などに注意しながらAさんの話が聞き取れているかを測った一では、正答率が90.7%と良好であった。一方、Aさんの表現の工夫を捉えられているかを測った二では、正答率が62.0%であった。資料や機器の活用など、伝えたい内容を適切に伝えるための表現の工夫について、日頃から考える機会を設けることが重要である。また、三についても正答率が20.6%と低く、自分の考えを分かりやすく伝えるために、具体的な内容を補足するなど、表現を工夫する資質・能力の定着に課題が見られた。

三 文学的文章 出典『となりの脳世界』（朝日新聞出版）村田沙耶香

『となりの脳世界』の中から「京都お稽古体験記」と題し、大人になって新しく何かを学びたいと思っていた筆者が、京都で小鼓の一日体験に参加したときのことを描いた随筆を本文とした。「知識及び技能」について、一の語彙に関する問題の正答率は92.8%と良好であったが、表現の技法（比喻）の理解を測った三Hでは、正答率が18.7%と低かった。知識・技能を身に付けることに加え、それが生きて働くものとなるよう、言語活動の改善・充実が求められる。また、三Iの正答率が10.3%と最も低く、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える資質・能力の育成への継続した取り組みが必要である。

四 古典（古文） 出典『假名草子集』『伊曾保物語』（岩波書店）前田金五郎・森田武 校注

伊曾保物語から「馬と獅子王の事」を本文とした。一及び四は、音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方に関する事項を出題したが、一の正答率が90.3%なのに対し、四の正答率が55.5%であった。漢文を音読して古典の世界に親しむために、返り点など訓読に必要な基礎的な事項について更なる定着が求められる。二のA・Bともに正答率が10%台であったことから、現代語訳を手掛かりに、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈する資質・能力の育成が急務である。

五 説明的文章【文章Ⅰ】出典『＜民藝＞のレッスン つたなさの技法』（フィルムアート社）鞍田崇 【文章Ⅱ】出典『＜問い＞から始めるアート思考』（光文社）吉井仁美

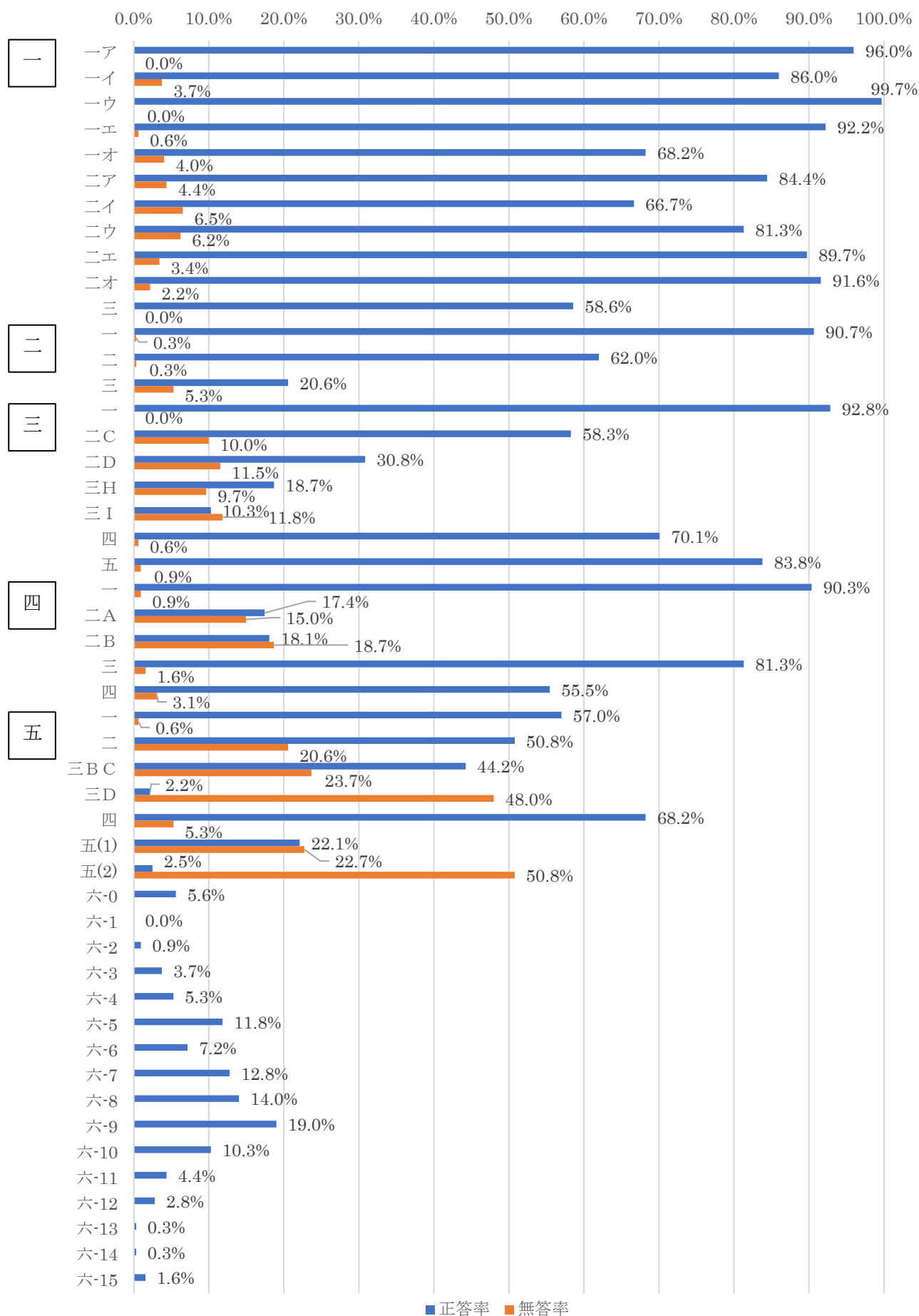
物との関わり方について述べた二つの文章を本文とした。特に正答率の低かったものとして、三Dの2.2%及び五（1）の22.1%、（2）の2.5%が挙げられる。三Dでは、二つの文章の関連性を踏まえ、【文章Ⅰ】の「用の美」という抽象的な表現が意味する内容の理解を測ったが、必要な情報に着目して要約することに課題が見られた。また、五では、文章に表れているものの見方や考え方を正確に捉え、それらについて考えられるかを測った。言葉の意味を文脈に応じて的確に捉えながら、複数の資料を批判的に読むことで、考えを広げたり深めたりする力の育成に引き続き取り組んでいく必要がある。

6 指導の改善の視点

国語科における課題として、目的に応じて必要な情報を取り出すことや集めた情報を整理して要約したり、自分の考えを広げたり深めたりすることなどが挙げられる。

指導の改善にあたっては、単元で育成する資質・能力を明確にし、その育成のためにはどのような言語活動が適切であるかを軸において単元の指導と評価の計画を立てることが大切である。また、生徒が各単元で目指す自己の姿を具体的に想定して主体的に学習活動に取り組めるよう、単元の目標については、単元の最初において生徒と教師で共有し、一つ一つの学習活動の意義（「何のために活動しているのか」）を生徒が理解して活動に取り組むことが重要である。そのうえで、学習評価を生かして生徒の学習状況を改善し、育成を目指す資質・能力を確実に育成していきたい。

7 令和7年度 正答率調査結果（国語）（調査対象：321人）



Aさんが、資料などを用いるが、
 分の考えが分かりやすく伝わるよう
 の表現を工夫する学習活動の過程
 で、提案のレハーサルを振り返り、
 改善点を考へている場面である。

Aさん読書生活に、ICTを活用する
 ために、【話の内容】の傍線の部分に
 いて、電子的に書籍を借りるのと
 比べ、体面的に伝えた方がよいと
 を考へて、【資料】を踏まえて、
 展開し、ポイントをはき、目的に
 応じて適切な情報を取り出し、整
 理する。

具体的には、【話の内容】の展開
 として、ICTを活用し、時間と資
 料③をかり、電子書籍を自宅に
 借り出し、関係性を整理する。

③ポイントとなる。が、
 生活表現を工夫して、
 社会生活が求められる。

【問い】 Aさんはリハーサルを振り返り、【話の内容】の——線の部分の後に一文を付け加え、電子書籍を借りることの利点を具体的に伝えようと考へた。あなたがAさんなら、【話の内容】と【資料】を踏まえ、どのように話すか。三十五字以上、四十字以内の一文で話すように書きなさい。

そこで、私はICTを活用した読書を提案します。【資料】③を見てください。例えば、パソコンなどのICT端末を使えば、遠くの図書館からも電子書籍を借りることができます。また、読んだ本の紹介カードなどをパソコンで作成し、オンラインで友達と共有することもできます。友達の感想などをいつでも知ることができるため、興味や関心を広げたり、考えを深めたりすることができそうです。このように、ICTを活用して時間を作ったり、お互いに刺激し合ったりして、新しい読書生活に挑戦してみませんか。そして、大人になっても読書に親しんでいきましよう。

五 五 (1)

れ、えりあ
らだち考たて
べんがやげ面
述読な方広場
てをし見をる
いⅡ】用のえい
つⅠ】活の考て
に章をものし
方文Ⅰる分と
わり【Aい自う
関Ⅰ成てよ
の章表いてし
と文がついた
物さ文章につ
たさ文方深る。

【文と述では、
ないⅡ】もと本の述べは奥においで比較すこの情を得んとポイント「読むこと」の構造と内容の把握」「精査・学習過程年間を育成していく必要がある。」「認

きな文章そな
こ【文とい
て一方見え
使を見一けん
物は価値観か
点とし能要約
を観とし章力
的にな力をで
明目的批判生
確に適切なしか
にし読みなが
じに応的にした

【問い】

五 【文章Ⅰ】、【文章Ⅱ】を読んだYさんは、【文章Ⅰ】、【文章Ⅱ】に表れている物との関わり方の違いを踏まえて自分の考えをまとめる過程で、生成AIを活用した。次の□は、そのときの【質問と回答の一部】である。これを読んで、後の（１）と（２）の問いに答えなさい。

○ 社 会

1 出題のねらい，配慮事項

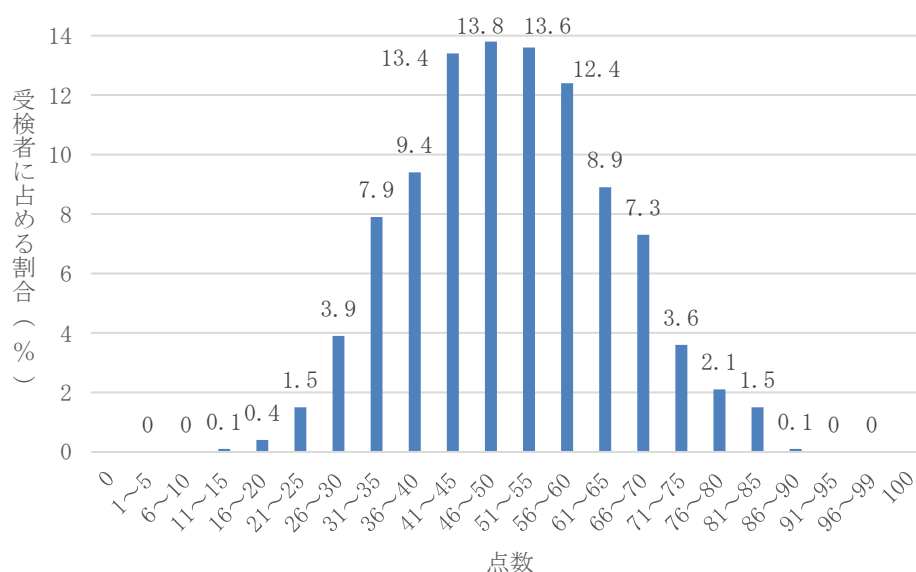
- ① 中学校における地理的分野，歴史的分野，公民的分野の三分野にわたって，基礎的・基本的な学力が定着しているか検査できるようにした。
- ② 複数の知識を活用しながら，文章や資料から情報を適切に読み取り，それらを多面的・多角的に考察・構想し，自らの言葉で表現する力を問う問題を出題した。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に基づいた出題とするとともに，身近な地域である山梨に関する題材や時事的な事項に関する題材を取り入れるように配慮した。

2 教科別 平均点，最高点，最低点（調査対象：3,191 人）

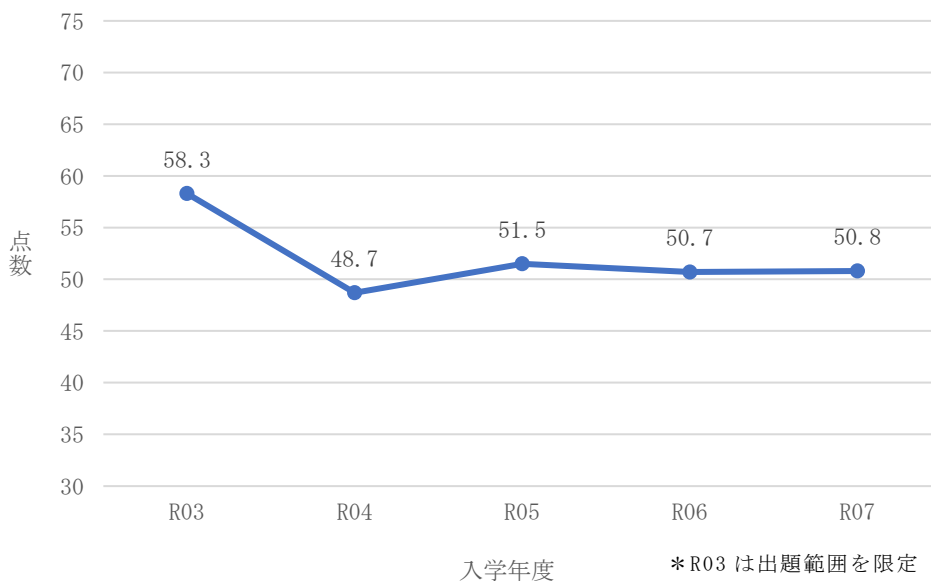
平均 50.8 点，最高点 94 点，最低点 13 点

3 社会の得点分布（調査対象：3,191 人）

*小数点第 1 位までを表示している。



4 平均点の推移（調査対象：各年度の 5 教科受検者全員）



5 大問別の内容と抽出調査・分析

1 地理的分野

1の「世界の諸地域」に関する問題では、(1)②Zの発展途上国でみられる大都市に人口が集中しているという一般共通性について表現する問題は、正答率が76.6%と高水準にあり、基本的な知識と基礎的な表現力が身に付いているといえる。

2の「日本の諸地域」に関する問題では、(1)cの日本の東端と西端の島の間の時差の有無を問う問題は正答率が39.9%、また(2)の緯度の異なる3つの都市における5～7月の降水量のグラフを特定する問題は正答率が31.5%であった。「標準時子午線」といった語句についての知識の理解の質や、地理的な見方・考え方を働かせて、読み取った地理的事象の意味を多面的・多角的に考察することに課題があると考えられる。

2 歴史的分野

2の「日本や世界の歴史」に関する問題では、(3)の幕末に金貨が海外へ大量に流出した理由を問う問題は、完答(3点)正答率が26.5%である一方、その対策と影響を問う問題の正答率は、それぞれ85.0、81.0%であったことから、歴史的事象の影響について理解はできているものの、歴史的事象が起こった背景を表現することに課題があると考えられる。

3の「今(2025年)から〇〇年前に起きた日本や世界の主なできごと」に関する問題では、(2)の自作地の割合が変化した背景についての問題は、完答(4点)正答率が15.3%、無答率が27.1%であり、資料から読み取った情報を基に、歴史的事象について背景も含めて説明することに課題があると考えられる。(3)Sの東西冷戦の終結過程について、正誤を判定する問題の正答率は79.8%であり、現代史に関する基礎的・基本的な知識の定着は良好であった。

3 公民的分野

1の「私たちと現代社会」に関する問題では、(1)SDGs(持続可能な開発目標)の内容を特定する問題は、正答率が72.9%と高く、現代社会の課題と取り組みに関する基礎的・基本的な知識の定着は概ね良好であった。

2の「私たちと政治」に関する問題では、(3)資料から国会が“ねじれ”にあることを読み取り、そのときの国会の状態について特定する問題の完答(4点)正答率が21.8%と低く、前年に引き続き、学習内容を現実の事象と関連付けて考察することに課題がある。

3の「私たちと経済」に関する問題では、(3)の累進課税の具体例を示した資料を特定する問題の正答率が32.4%、(4)の資料から再分配前後における所得階級別の世帯分布の変化を読み取り、所得再分配の効果について説明する問題の完答(4点)正答率が5.0%、無答率が34.0%であり、資料を根拠として、現代の社会的事象の意味を説明することに課題があると考えられる。

4 三分野総合

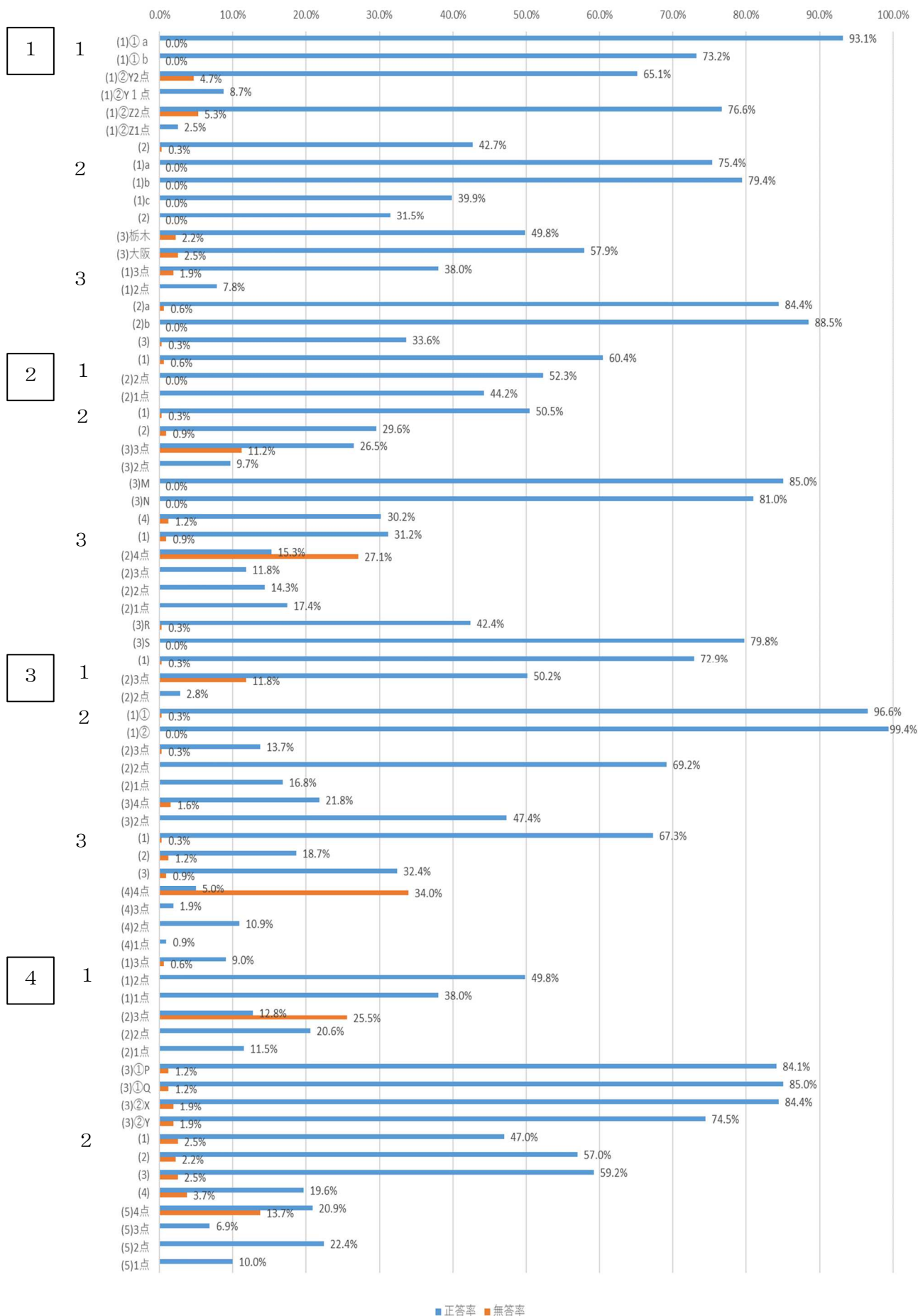
今年度は世界遺産をテーマに、1では「世界遺産とその遺産がある地域」に関する問題、2では「日本で世界遺産がある地域」に関する問題について、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野から基礎的・基本的な内容を中心に出题した。

1(2)のフランス革命後の社会について、資料を用いて説明する問題の3点の正答率は12.8%、無答率は25.5%であり、歴史的事象について表現することに課題が見られる一方、(3)①の世界遺産に関連した歴史的事象を特定する問題の正答率はそれぞれ84.1、85.0%であり、歴史的事象についての基礎的・基本的な知識の定着は良好であった。

6 指導の改善の視点

具体的な事象を教材として、社会的な見方・考え方を働かせることを通して、個別的知識の定着にとどまらずに、より一般性の高い知識の習得を目標とした授業改善が求められる。具体的には、資料から読み取ったことやそこから考えられることを表現し、それを説明・議論し合うなかで事象を帰納的に一般化したり、それを基に立てた仮説を他の事象で検証する過程を通して、さらに一般性の高い知識への高次化を図ったりするような学習である。このような学習過程のなかで、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、統一的に育成されると考えられる。

7 令和7年度 正答率調査結果（社会）（調査対象：321人）



8 ピックアップ 社会

1	2 (3)	栃木県: 正答率 49.8% (2 点)	誤答率 48.0%	無答率 2.2%
		大阪府: 正答率 57.9% (2 点)	誤答率 39.6%	無答率 2.5%

(3) 次の資料は、5つの道府県間における、牛乳や乳製品の原料となる生乳の移出量と移入量(2023年)を示したものであり、ア～エは、北海道、栃木県、大阪府、熊本県のいずれかである。メモを参考に、栃木県と大阪府に当てはまるものを、ア～エから一つずつ選び、それぞれ記号で書きなさい。

資料

他の道府県への生乳の移出量(t)					
	ア	イ	神奈川県	ウ	エ
他の道府県からの生乳の移入量(t)	ア	86	—	—	—
	イ	—	—	—	—
	神奈川県	28 659	—	110 758	—
	ウ	—	—	—	—
	エ	10 094	—	55 998	—

注)「—」は移出入なし。

(「牛乳乳製品統計調査」より作成)

<メモ>

- ・神奈川県には、イ、ウから生乳が入ってきて(移入されて)いる。
- ・アからエへ生乳が送られて(移出されて)いる。
- ・生乳には鮮度が求められる。

地理的事象についての資料とメモを適切に読み取り、日本の諸地域の特色に関する知識を基に、総合的に仮説を立てて選択する問題である。本問題のポイントは、第一に、メモを参考に、資料からの確に事象を読み取ることである。第二に、読み取った事象の意味や相互の関連性を、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力である。これらの力を養うためには、例えば、「なぜ A に〇〇がみられるのだろうか。Bにもみられるから、□□という条件がある場所に、みられるのだろうか。ではCにも〇〇がみられるのだろうか。」というように、地理的見方・考え方に基づいて帰納と演繹を往還した思考の習慣を日々の授業や日常生活のなかで身に付けることが必要である。

2	2 (3)	記述: 正答率 26.5% (3 点)	9.7% (2 点)	誤答率 52.6%	無答率 11.2%
		M: 正答率 85.0% (1 点)	誤答率 15.0%	無答率 0.0%	
		N: 正答率 81.0% (1 点)	誤答率 19.0%	無答率 0.0%	

(3) 幕末の日本が、経済面で混乱した要因の一つに、日本の金貨が海外へ大量に流出したことがあげられる。この現象が起きた理由を、資料Ⅰをもとに、「外国人が欧米から日本に銀貨を持ち込むことで、～ため金貨が海外へ大量に流出した。」という形で、簡潔に書きなさい。また、資料Ⅱを参考にして、金の流出を防ぐために幕府が行った対策と影響について述べたメモ中の M、N の〔 〕に当てはまる語句の一つずつを選び、記号で書きなさい。

資料Ⅰ 金貨(○)、銀貨(●)の交換比率(イメージ)

<欧米>	<日本>

資料Ⅱ 小判の重量と金含有率の推移

年	小判名	小判の重量(g)	金含有率(%)
1859	安政小判	9	57
1860	万延小判	3	57

(「貨幣博物館」常設展示図録より作成)

<メモ>
・幕府は対策として、小判を改鋳し、万延小判を製造した。この小判は、前年に鑄造された安政小判と比較すると、金含有率は同じだが、小判の重量は軽くなっている。
・上記のことから、幕府は金含有量を M (ア 多く イ 少なく) した小判に改鋳するという対策をしたことがわかる。
・しかし、小判の価値が下がったことで、物価が N (ウ 上昇 エ 下落) し、人々の生活は苦しくなったという影響が出た。

幕末に日本から海外へ金貨が流出した理由を、提示された資料を用いて説明する問題である。本問題に限らず、表現する問題を解答するポイントは3つある。第一に、問題文から何を答えるべきかをつかむことである。第二に、問題文と資料を関連付けて、必要な情報を読み取ることである。第三に、読み取った情報を指定された形でまとめることである。また、記号問題については、幕府が金貨の流出を防ぐために行った対策とそれによる影響を、資料とメモを用いて理解し、公民的分野の学習内容も想起しながら考察することを求めている。このような問題を解くためには、資料から必要な情報を読み取る力とともに分野横断的な学びを通じて、多面的・多角的に考察する習慣を日頃から身に付けておくことである。

○ 数 学

1 出題のねらい，配慮事項

数と式・図形・関数・データの活用の各領域にわたってバランス良く検査できるように，学習指導要領に基づき，次の点に配慮して出題した。

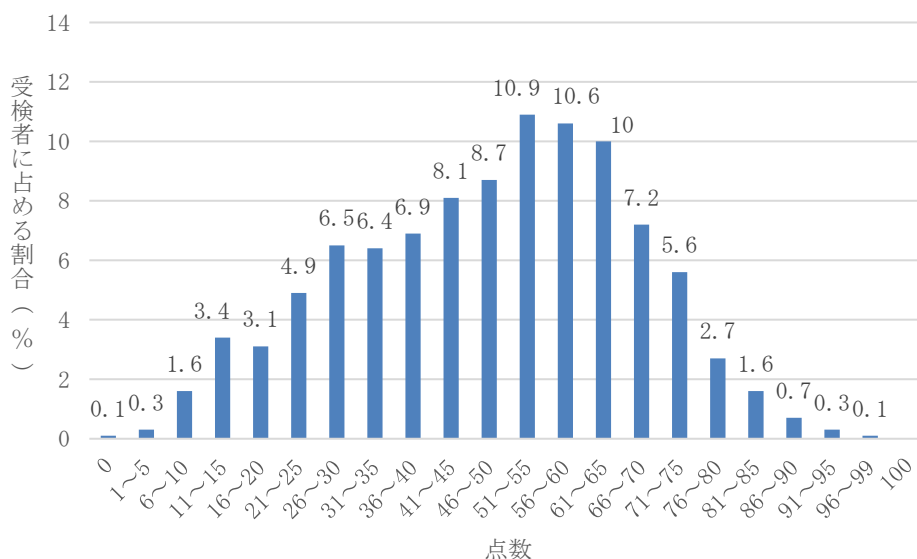
- ① 基礎的な概念や原理・法則などの理解や，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能について検査できるようにした。
- ② 数学を活用して事象を論理的に考察する力について検査できるようにした。
- ③ 数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力について検査できるようにした。
- ④ 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力について検査できるようにした。

2 教科別 平均点，最高点，最低点（調査対象：3,191 人）

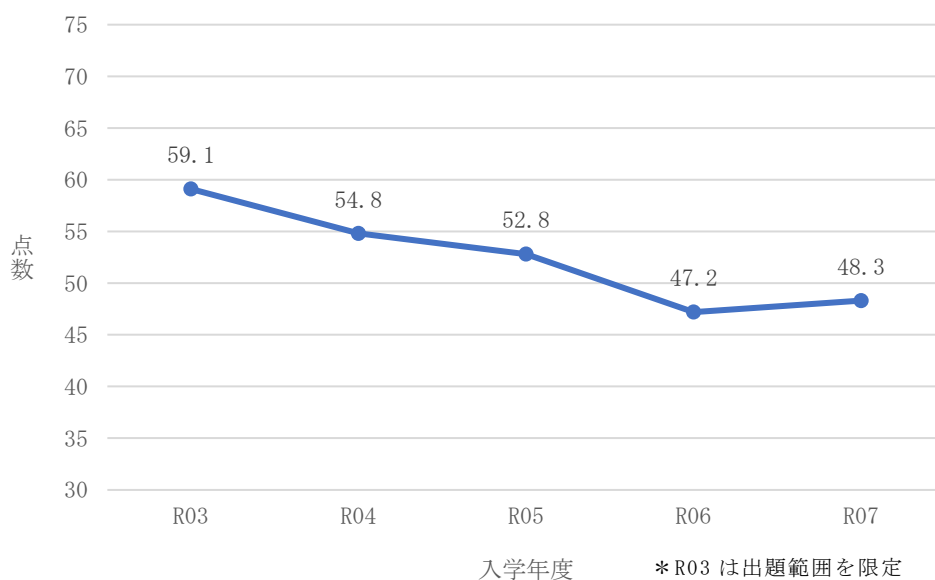
平均 48.3 点，最高点 100 点，最低点 0 点

3 数学の得点分布（調査対象：3,191 人）

* 小数点第 1 位までを表示している。



4 平均点の推移（調査対象：各年度の 5 教科受検者全員）



5 大問別の内容と抽出調査・分析

1 「数と式の計算」

基礎的・基本的な数式の処理ができるか検査する問題を出題した。正答率が高い問題は「正負の数の計算」で正答率が90%以上であった。「負の数を含む分数の計算」の正答率が最も低く、約77%であったが、その他の問題は正答率80%以上となり基本事項において定着が見られた。

2 「基礎的事項」

文字式が表す数量、角の大きさ、作図、反比例、確率の基本的な内容において数学的に表現・処理したりする力について検査する問題を出題した。1は新しい形式の選択問題としたが、正答率は60.6%にとどまった。数学的な見方・考え方を働かせながら、習得した知識及び技能を活用することにより、生きて働く知識となり、技能の習熟・熟達につながる。そのことを踏まえ、指導に当たっては、数学的活動を一層充実させることが必要である。

3 「データの活用、数と式」

1(2)は2つの箱ひげ図の箱に着目して、主張の根拠を記述させる問題を出題したが、正答率は44%と昨年のデータの分析の2つの度数折れ線の主張の根拠を記述する問題が同じような形式の問題の正答率3.6%から比べてかなり改善された。問題を解決する過程において、2つの箱ひげ図を吟味し、批判的に考察し判断する力をつける指導の継続が必要である。

2(2)の直方体の容積を表す式を求める問題では、正答率は5.9%であった。条件を的確に捉え考察し表現することに課題が見られた。

4 「関数」

1(2)は関数の x の増加量から y の増加量を求める問題を出題した。教科書の基本的なレベルの問題であるが、正答率は32%と課題が見られた。一次関数の式やグラフなどを活用して伴って変わる2つの数量の変化の様子を調べるなどの指導が大切である。3(2)では条件を読み取り x と y の関係を表す式と、そのときの変域を求める問題を出題した。正答率は4.3%(部分正答8.7%)であった。変化や対応の特徴を見いだし、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することに課題が見られた。

5 「関数」

関数 $y=ax^2$ について出題した。与えられた条件をもとに変化や対応の特徴を見いだし、式、グラフを相互に関連付けて考察し、解答を導く問題を出題した。正答率は1(2)が32%、2が9.9%、3が4.3%であり、式やグラフ、固定した図形との関係などを相互に関連付けて考察し表現することに課題が見られた。

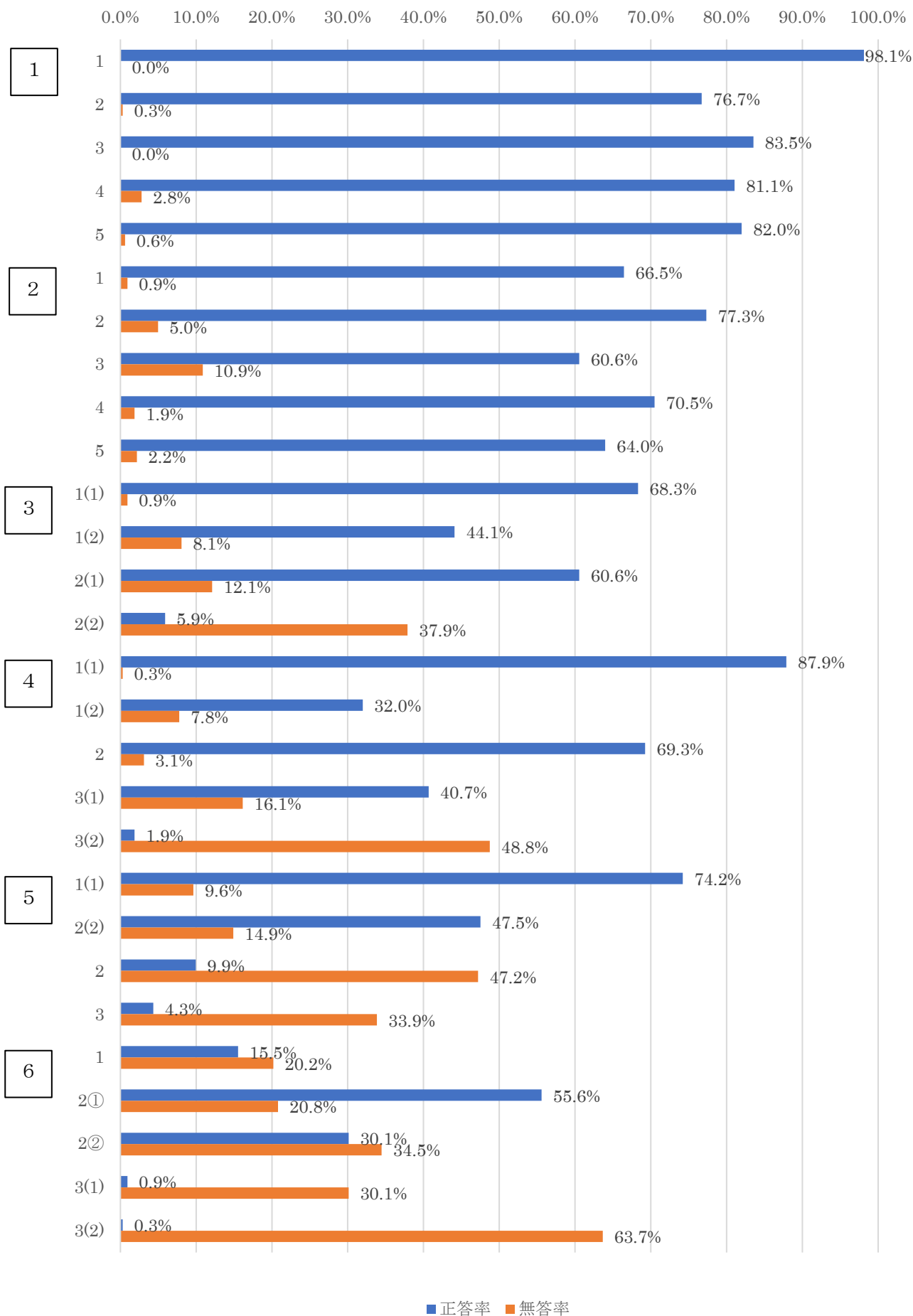
6 「図形」

1では、図形を論理的に考察し表現する力を養う相似の証明問題を出題したが、正答率は15.5%と課題が見られた。2(1)では、文字を用いて式を表現する問題、2(2)では三平方の定理を具体的な場面で活用する問題を出題した。正答率は2(1)が55.6%、2(2)が30.1%となり、基本的な性質を論理的に確かめることに課題がある結果となった。3(1)の長さの比を求める問題の正答率は0.9%、回転体の体積を求める応用問題では正答率は0.3%であった。実際に平面図形の1辺を軸として回転して調べるなどの観察や操作、実験などの活動を通して空間図形の理解を深める指導が大切である。

6 指導の改善の視点

大問1の正答率から、基礎的・基本的な知識や技能については、全体的には習得されていると考えられる。また、事象を数学化し、数学的に解釈し、数学的に表現・処理する力や、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に考察し表現したり、問題解決に活用したりする力は今後も育成が必要であると考えられる。日常の授業において、「日常生活の事象」を教材化し、生徒が数学的に筋道立てて考察し、思考過程や根拠などを明らかにしながら論理的に説明し主体的に解決する学習や、関数や図形など、複数の領域にわたって総合的に考察し問題解決を通して数学的活動が展開されるよう、授業改善が必要である。

7 令和7年度 正答率調査結果（数学）（調査対象：322人）



3 2 (2) 正答 5.9% 誤答率 56.2% 無答率 37.9%

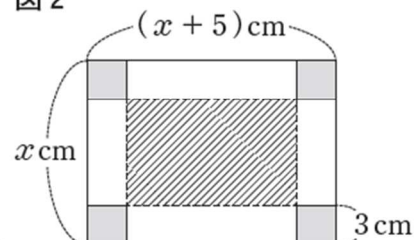
- 2 横が縦より5 cm 長い長方形の紙がある。この紙の縦の長さを x cm とする。
このとき、次の(1)、(2)に答えなさい。ただし、紙の厚さは考えないものとする。

- (1) ふたのない直方体の容器を作る。そのため、図2のように、図2
この紙の4すみから1辺が3 cm の正方形を切り取った。この
容器の底面積(斜線部分)は、次の式で表すことができる。

底面積を表す式

$$(x - 6)(x - 1) \quad (\text{cm}^2)$$

このとき、底面積が 36 cm^2 となるような x の値を求めなさい。



- (2) 図3のような、ふたのある直方体の箱
を作る。そのため、図4のように、図2
の4すみの正方形のうち2つを長方形に
変えて切り取った。

このとき、直方体の容積を表す式を
求めなさい。

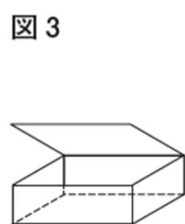
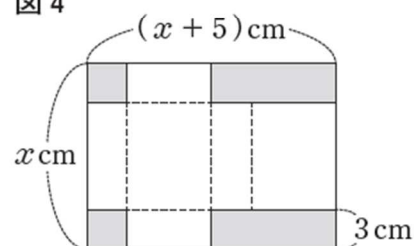


図3

図4



(1)の条件から立式し方程式を解く問題について、正答率は 60.6% となった。(2)については平面図と立体の関係を考え、直方体の容積を表す式を求める問題を出題した。正答率は想定より大幅に低かった。立体図形の体積を求める式について、文字を使った式で論理的に考察する場面や展開図を用いて筋道立てて説明する場面を意識した指導が求められる。

4 1 (2) 正答率 32.0% 誤答率 60.2% 無答率 7.8%

- 1 満水状態からスイッチAを押し、電気給湯器の中のお湯が
なくなるまでの x と y の関係を表した式は、右のように
表すことができる。

このとき、次の(1)、(2)に答えなさい。

- (2) x の増加量が10のとき、 y の増加量を求めなさい。

式

$$y = -12x + 360$$

$$x \text{ の変域は, } 0 \leq x \leq 30$$

関数の x の増加量から y の増加量を求める問題を出題した。正答率が低かった原因として、一次関数の、変化の割合をもとに x の増加量に対する y の増加量を求めることについての理解が不足していることがあげられる。一次関数の式やグラフなどを活用して伴って変わる2つの数量の変化の様子を調べるなど、数学的に処理をする指導が求められる。

○ 理 科

1 出題のねらい，配慮事項

中学校学習指導要領の趣旨に基づき，「自然の事物・現象に進んで関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行う」ことに留意した。

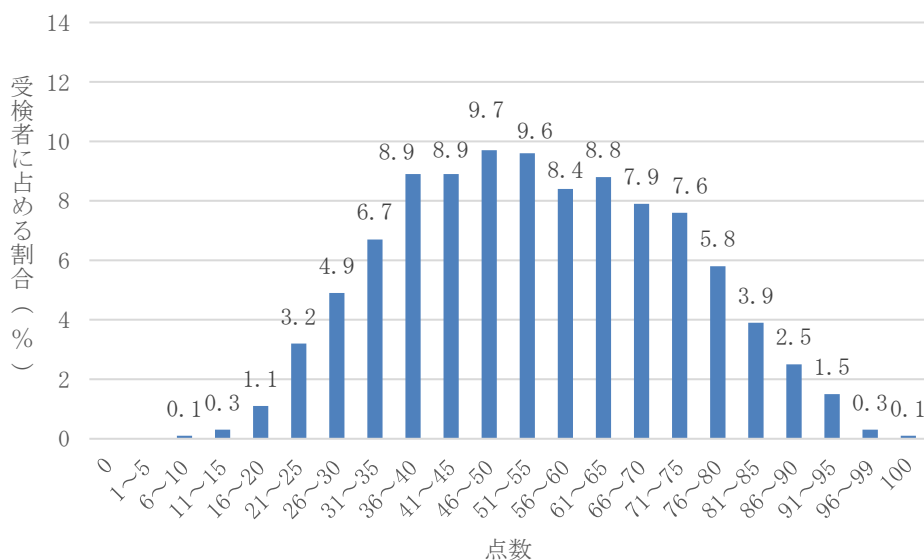
- ① 全学年にわたり，第1分野，第2分野の全領域から偏りのないように出題した。
- ② 観察，実験を重視し，自然の事物・現象を理解するための基礎的・基本的事項について検査できるようにした。
- ③ 問題解決の力や論理的な思考力が検査できるようにした。
- ④ 自然の事物・現象に関心をもち，学習したことを基に考えようとする力を検査できるようにした。
- ⑤ 身近な材料を扱い，実社会・実生活との関連を実感できるようにした。

2 教科別 平均点，最高点，最低点（調査対象：3,191 人）

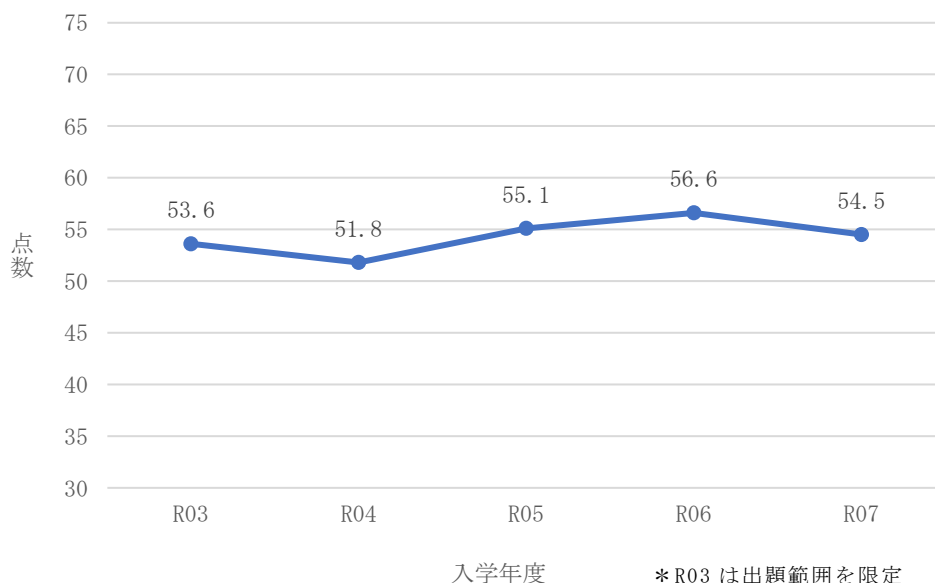
平均 54.5 点，最高点 100 点，最低点 9 点

3 理科の得点分布（調査対象：3,191 人）

* 小数点第1位までを表示している。



4 平均点の推移（調査対象：各年度の5教科受検者全員）



5 大問別の内容と抽出調査・分析

1 「動物の体のつくりとはたらき」

実験結果から消化酵素のはたらきについて理解しているかを確認した。1 (3) では、消化酵素のはたらきを実験結果から判断できるかを確認したところ、完答は82.6%となり、学習の定着が確認された。

2 「地層の重なりと過去の様子」

柱状図から地層のつながりを理解し、作図によって表現できるかを確認した。3 では、各地点の柱状図から地層のつながりを判断できるかを確認したところ、正答率は26.7%となり、課題が残った。地層のでき方を考察して、地層の重なり方や広がり方についての規則性を見いだす取組が必要である。

3 「気体の発生と性質」

気体の特徴を理解し、実験結果から判断できるかを確認した。3 では、実験結果から気体を特定し、二酸化炭素の性質を確認したところ、正答率は70.8%となり、学習の定着が確認された。

4 「水中の物体にはたらく力」

浮力のはたらきについて理解しているかを確認した。2 では、圧力の大きさを比較し、求めることができるかを確認したところ、完答は6.8%となり、課題が残った。圧力は力を加える部分の面積に関係することを見だし、単位面積あたりの力の大きさであることを理解させることが必要である。

5 「生物と環境」

水中生物を分類し、水質環境を判断できるかを確認した。2 では、水生生物調査の結果から水質について判断できるかを確認したところ、完答は25.5%となり課題が残った。身近な自然環境を調べる活動を行い、観察結果や資料を基に考察しやすい自然環境の事例を取り上げ、人間の活動など様々な要因が自然界のつり合いに影響を与えていることを理解させることが必要である。

6 「天気の変化」

天気図を読み取り、気象状況を判断できるかを確認した。2 では、降水のようすから積乱雲による天気の特徴を理解し、判断できるかを確認したところ、正答率は62.7%となり、学習の定着が確認された。

7 「水溶液とイオン」

実験結果から水溶液中のイオン量を判断し、グラフで表現できるかを確認した。3 では、実験の結果から、電離しているイオンを化学式で表現できるかを確認したところ、正答率は9.0%となり、課題が残った。中和反応の実験を行い、中和反応によって水と塩が生成することをイオンのモデルと関連付けて見いださせることが必要である。

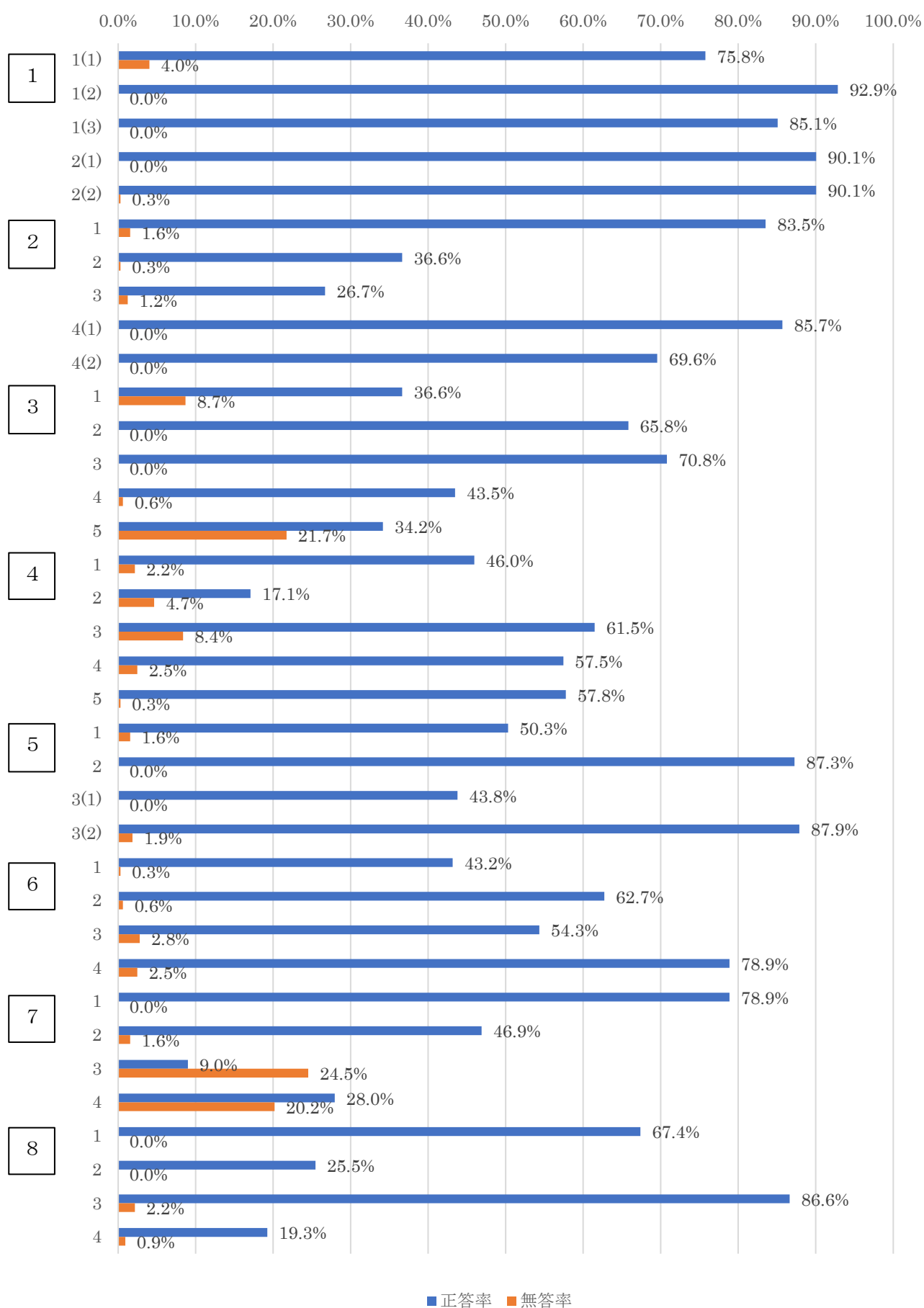
8 「電流」

回路の特徴を理解し、電流と電圧の関係から電力を判断できるかを確認した。2 では、直列回路、並列回路における合成抵抗の大小関係を確認したところ、正答率は25.5%となり、課題が残った。直列回路、並列回路における電流と電圧の変化を考えさせることが必要である。

6 指導の改善の視点

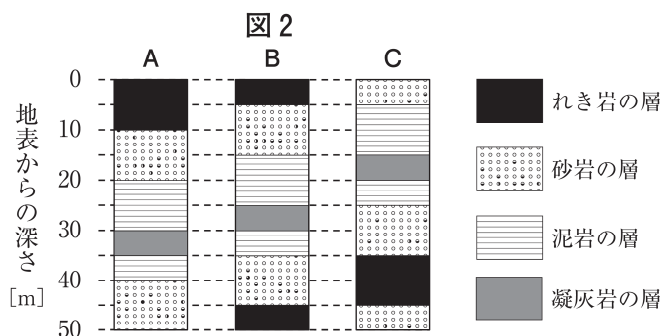
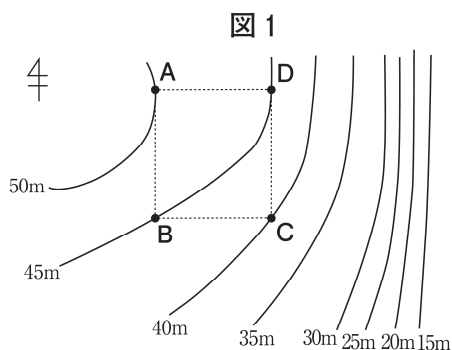
基礎的・基本的な知識や技能を問う問題については、全体的に学習内容の定着がなされているといえる。しかし、必要な情報を読み取り、学んだ知識を活用したり、法則性を見いだしたりして正答を導くことには課題が見られる。知識の定着のみならず、学習内容と日常生活との関連について理解を深めていくとともに、必要な情報を読み取り、正答につなげていく分析力や思考力の育成が必要である。

7 令和7年度 正答率調査結果（理科）（調査対象：322人）

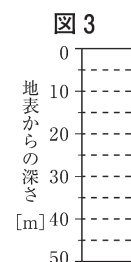


- 2** 地層の重なり方や広がり調べるために次の調査を行った。1～4の問いに答えなさい。
ただし、調査を行った地域の地層は、ある傾きをもって平行に積み重なっており、曲がったり、ずれたりせず、地層の上下の逆転もないものとする。

〔調査〕 ある地域でボーリング調査をして、地下の地層のようすを調べた。図1は、その地域の地形図をもとに、A～Dの調査地点を模式的に示したものであり、Dは、Cの北の方角にある地点である。また、図1のA、B、C、Dを結んだ図形は長方形になっている。図2は、図1のA～Cにおける、各地点の地下の地層のようすを示した柱状図である。



- 3 図1のDの地下の地層のようすを柱状図で表すとき、礫岩の層はどこにあると考えられるか、図3の点線を利用し、礫岩の層を塗りつぶしてかきなさい。

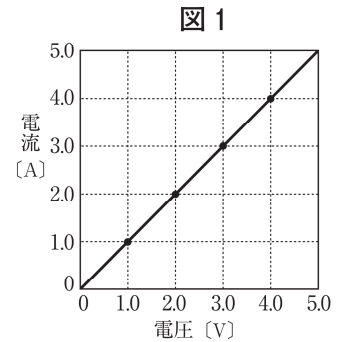


各調査地点の柱状図から地層のつながりを判断し作図によって表現する、思考力と判断力を問う出題とした。この問いでは、調査地点A～Cの柱状図を比較し、地層の重なり方や広がり方の規則性を見いだして解答する。実際に柱状図を用いて地層の広がりを考えさせたり、コンピュータによるシミュレーションを行いイメージをもたせた上で理解させることが必要である。

正答率 26.7% 無答率 1.2%

- 8 抵抗の大きさがわからない電熱線Xと抵抗の大きさが $5\ \Omega$ の豆電球Yを用いて回路をつくり、電力の大きさを調べるために実験を行った。1～4の問いに答えなさい。

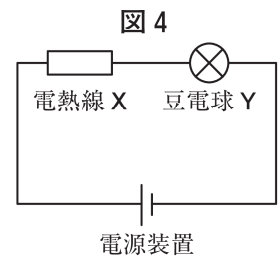
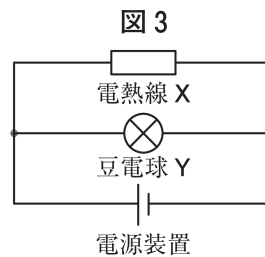
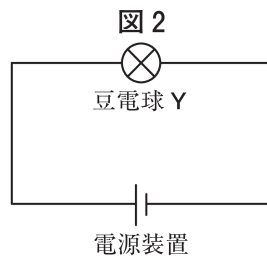
〔実験〕① 電熱線Xを電源装置につなぎ、電熱線Xに流れる電流と加わる電圧を測定した。図1はその結果をまとめたものである。



② 電熱線Xと豆電球Yと電源装置を用いて、図2、図3、図4のような回路をつくった。

③ 図2、図3、図4のそれぞれの回路で電源装置の電圧が3.0Vになるようにし、豆電球Yが光るようすを観察した。豆電球Yの明るさは図2と図3は同じであったが、図4は図2、図3と比べて暗かった。

④ 図2、図3、図4のそれぞれの回路で電源装置の電圧が3.0Vになるようにし、電熱線X、豆電球Yに流れる電流と加わる電圧を測定し、電力を調べた。



- 4 〔実験〕の④で、最も電力が小さいものはどれか、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 図2の豆電球Y

イ 図3の電熱線X

ウ 図3の豆電球Y

エ 図4の電熱線X

オ 図4の豆電球Y

並列回路、直列回路それぞれにおける流れる電流と抵抗に加えられる電圧の特徴を把握した上で、電力の大きさを比較する、思考力と判断力を問う出題とした。抵抗に流れる電流の大きさ、また抵抗に加わる電圧の大きさが回路によってどのような違いがあるかを考えさせ、実際に豆電球をつないで明るさを比較させるなどの実験を行うことが必要となる。

正答率 19.3%

無答率 0.9%

○ 英 語

1 出題のねらい，配慮事項

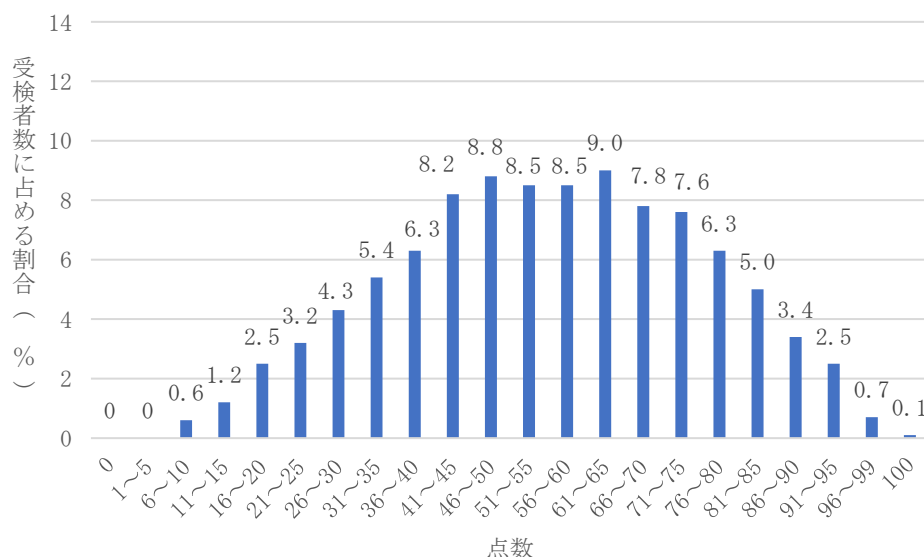
- ① 中学校の学習指導要領に示された外国語の目標及び内容に即して，基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し，「話すこと〔やり取り・発表〕」を念頭に，「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって総合的な英語の学力を検査できるようにした。
- ② リスニングテストの得点比重は従来どおり 30%とした。リスニングによる検査には，目的や場面，状況などを明確にした英文を聞いて，必要な情報を整理したり要点を捉えたりする問いを設けた。また今年度も，英語による音声の読み上げを1回のみとする問いを設けた。
- ③ 「読むこと」については，英語を理解する能力を検査するため，まとまりのある英文の概要や要旨を捉える力を検査できるように工夫した。また，「書くこと」については，文脈から判断して作文をする問いや，まとまった英文を指定された語数に従って書く問いを入れ，英語で表現する能力も検査できるようにした。

2 教科別 平均点，最高点，最低点（調査対象：3,191 人）

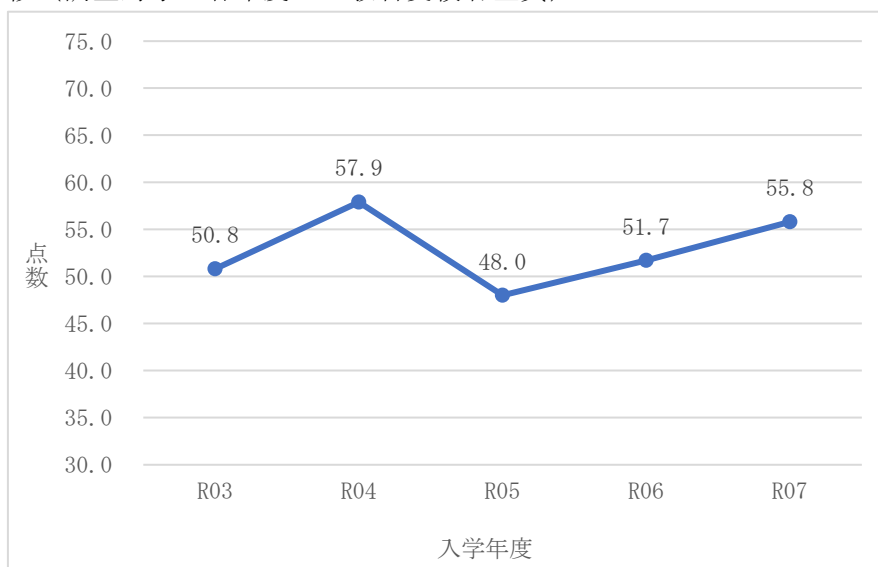
平均 55.8 点，最高点 100 点，最低点 6 点

3 英語の得点分布（調査対象：3,191 人）

*小数点第1位までを表示している。



4 平均点の推移（調査対象：各年度の5教科受検者全員）



5 大問別の内容と抽出調査・分析

1 「聞くこと」に係る問題

様々な場面での短い会話を聞き、それに関する問いに答える問題である。文脈を適切に理解したうえで、各場面に関する問いについて適切な答えを導く力を検査した。基礎的な知識・技能を問う問1及び問2は正答率が85%を超えた一方で、思考力・判断力・表現力を問う問3及び問4の正答率は60%を下回った。聞き取った情報を整理し、それを基に判断する力に課題が見られた。

2 「聞くこと」「書くこと」に係る問題

A L T（外国語指導助手）がプレゼンテーションについて生徒に指示している内容を聞き、それに関する問いに答える問題である。メモの一部を完成させる問題と、A L Tが最も伝えたいことを選ぶ問題を設定し、必要な情報を整理したり要点を捉えたりする能力と、英語を適切に書く能力を統合的に検査した。A L Tが最も伝えたいことを選ぶ問題の正答率が60%を下回り、聞き取った話の要点を捉える力に課題が見られた。

3 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

中学校の教師が、翌日の予定について生徒に説明している内容を聞き、それに関する問いの答えとして適切なものを選択肢から選ぶ問題である。英語で話された内容を適切に理解する実践的な力を検査できるよう、英語の読み上げ回数を例年と同様に1回とした。平均正答率は72%で昨年度を上回り、まとまりのある英文を1回で適切に聞き取る力に改善が見られた。

4 「読むこと」「書くこと」に係る問題

登場人物の中学生が、A L Tとの対話を通じて、英単語の成り立ちや言語と文化の関係について理解を深めていくという内容の会話文である。英語を運用するうえで必要な基礎的な言語材料（語彙、文法等）の定着を見る問題や、文脈を把握したうえで既習の知識を活用して表現する問題の中に正答率が30%以下のものがあつた。また文脈にふさわしい英文を自分で考えて書く問題を昨年度よりも1題増やして2題としたが、平均正答率が22.5%と低く、既習の言語材料を用いて自分の言葉で表現する力に課題が見られた。

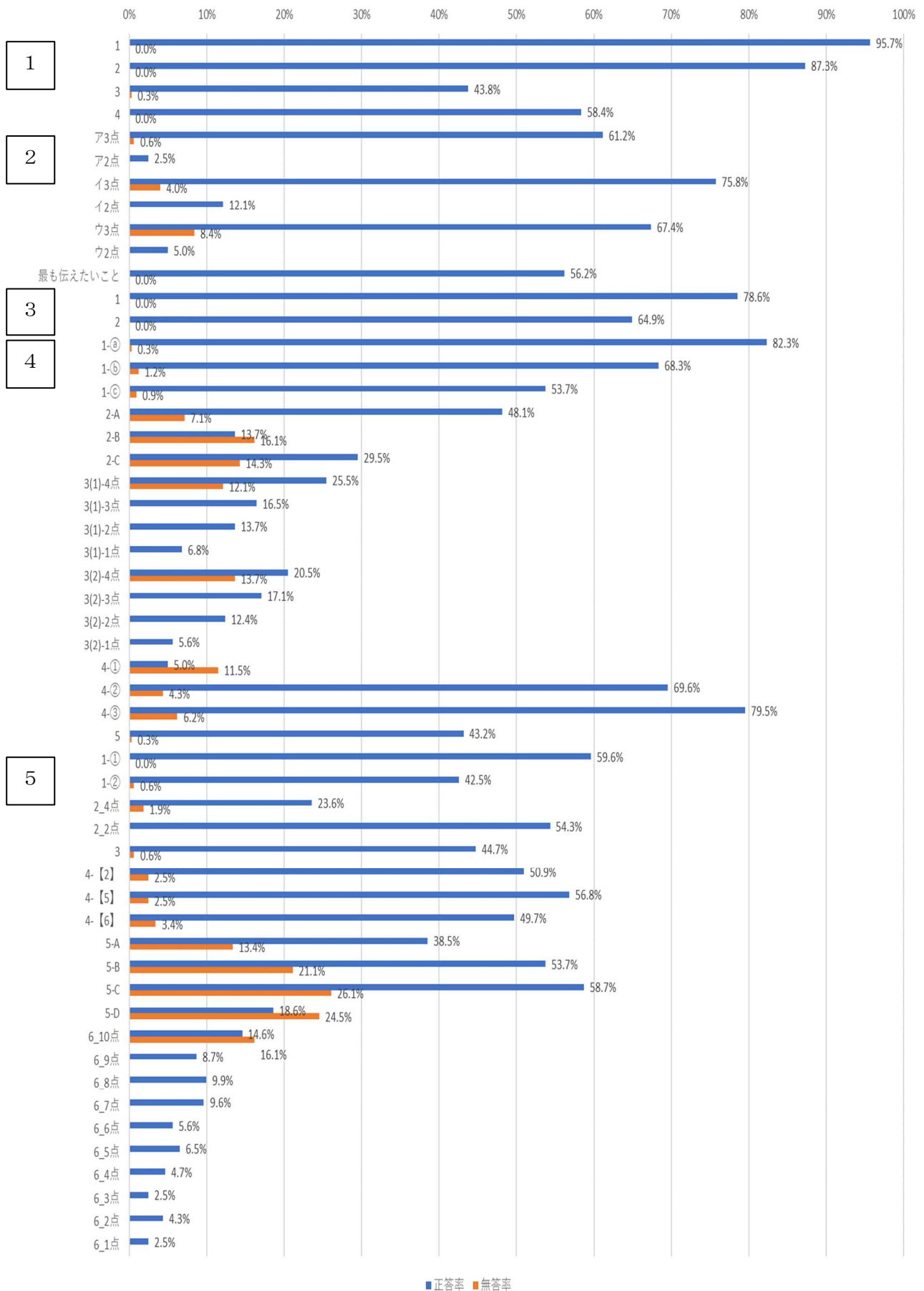
5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

登場人物の高校生が、クラスメイトと協働し、自分の住む町の魅力を発信することで観光客の増加につなげ、町おこしに貢献しようとするという内容である。まとまりのある分量の英文を理解する力が求められているため、種々の観点から検査できるよう、内容に関する適切な答えの選択、文脈を踏まえた英文補充、各段落の内容に合う見出しの選択、本文の内容の要約の完成といった、多様な問題を設定した。要約の完成の平均正答率は42.4%と想定正答率を下回り、まとまりのある英文の概要・要点の把握に課題が見られた。また、35語以上50語以内の英語で書くことを求めた問6では、35語以上の英語を書いた受検生の割合は68%と昨年度を上回ったものの、満点であつた受検生の割合は14.6%と低く、条件を満たした上でまとまった英文を書く力に課題が見られた。

6 指導の改善の視点

今回の検査においては、「聞くこと」では、聞いて得られた情報を基に判断し正答を導き出す力、「読むこと」では、概要を把握し、文脈を手がかりに問いに適確に答える力、「書くこと」では、文脈や与えられたテーマに対して適切に表現できる力が求められた。そのため、「聞くこと」「読むこと」の指導においては知識・技能に偏らないこと、また「話すこと」「書くこと」については、英語による発信力を高めることが重要になる。教科書を基にした日々の学習の中で、「聞く」「読む」といった活動に目的意識を持たせ、「話す」「書く」といった発信を意識した言語活動を多く行うことで、4技能の統合的な力を育成することが重要である。

7 令和7年度 正答率調査結果（英語）（調査対象：322人）



4 3 (2) 4点:20%, 3点:17%, 2点:12%, 1点:6.0%, 0点:44%(うち無答:14%)

(本文抜粋)

Maya: What a funny word! I understand that feeling. English is an interesting language.

Ms. Olsen: It is, and I think Japanese is too.

Maya: (2) (think) ?

Ms. Olsen: Well, because Japanese people like to make new, shorter words like “purezen” from “presentation” and “sumaho” from “smartphone.”

(解答例)

Why do you think so?

この設問は、本文の会話が成り立つように、下線部(2)に、think 以外にいくつか不足している語を補って適当な英文を書くという問題である。日本語には英語と同じ面白さがあると話す Ms. Olsen に対して、Maya が何かを尋ねている場面である。その後で Ms. Olsen が“Well, because Japanese people like to make new, shorter words...”と返答していることから、下線部(2)の疑問文としては、Maya が Ms. Olsen に、日本語には英語と同じ面白さがあると思う理由を尋ねるような内容の英文が入ることが分かる。そのため、解答例のように“Why do you think so?”(「なぜそう思いますか。」)のような文が適当な英文となる。

昨年度に引き続き、会話の流れから判断し、自分で適当な英文を思考して作り、適切に表現する形式の問題を出題した。文法など基本的な言語材料においては、その形式だけでなく、意味と内容をもった実際の言葉として、どのような場面でどのように用いられるのかについてもあわせて学習することが大切である。日頃から、教師やALTと生徒との間で、自然なやり取りを授業に取り入れ、英語による発信力を向上させることが大切である。

5 5 正答率 A:39%, B:54%, C:59%, D:19%
無答率 A:13%, B:21%, C:26%, D:25%

(問題抜粋)

Rui wanted to develop his hometown, so he made a *yurukyara* with his (A). However, it didn't go well. They talked with their teacher and he told them to (B) working. At the photo exhibition, Rui saw amazing pictures and learned his hometown has something special. Then he got the idea of holding a photo contest. Rui and his team members hope many people will visit their town and learn (C) wonderful it is through the contest. Now Rui is very (D) of his hometown.

この設問は、本文の内容に合うように要約文を完成させる問題である。Rui が町おこしのために取り組んだ内容に注目し、時間的な経過をふまえながら解答するとよい。Aでは Rui が誰と取組を行ったか、Bでは教師が Rui たちにどのような助言をしたか、Cでは Rui がどのような願いをこめて写真コンテストを開催しようとしているのかに注目すれば解答を導くことができる。またDでは、Rui が一連の取組を通して、自分の住む町に対する思いが変化した部分に注目することで、本文の該当箇所を参照しながら解答を導くことができる。

日頃の授業では、読み取った教科書の内容確認に留まらず、読み取った内容を、聞き手や読み手を変えて伝えたり、異なる視点から書かれた内容を読み比べたりする活動を随時取り入れていくことが大切である。